

PRO-LIFE

中絶に反対する運動

2000年6月 No.116

胎児を守る運動

生まれていないいのちへの父親の愛

「生まれていないいのちに対する父親の思いは
母親より薄いのではないだろうか」

イギリスのブレア首相の第四子が今年の5月に誕生すると伝えられております。首相は夫人の妊娠がわかった時、「生まれながら育児に協力したい」と喜んだそうですが、実際には、首相でなくても忙しい職場環境は育児への協力、命を育んでいる妻とこれから生まれてくる子への心遣いを非常に限られたものにしてしまうでしょう。

ある父子の神への信仰についての次のような問答を聞いたことがあります。一人の子どもが中学生になった時、自分は神を信じられないのでもう教会には行かないと言いました。その時父は、私をお前の父親であると信じるかと聞きました。子どもが、あなたが私の父親であることを疑ったことは無いと答えると、父はさらにどうしてだ、証明できるのかと尋ねました。子どもが答えられずに黙っている、父はお前は10数年に

わたる親子としての生活実感があるから疑わないのだろう、私にとって神も同じように若いときから神とともに生きてきたという体験が神を疑わせないのでと言いました。確かに、現代ではDNA鑑定など医学的に父子であることを証明する方法があるかも知れませんが、父親と子どもとの関係は親子としての生活体験に基づいているのかも知れません。子どもへの父親の愛についてはいろいろと語られておりますが、まだ生まれていないいのちへの父親の話は、まったくではないにしても、あまり聞いたことがありません。それは生まれていない子どもに対する父親の気持ちは、胎内で命を育んでいる母親よりも実感が薄いからかも知れません。

父親のまだ生まれていないいのちへの愛は妻への愛と密接に関わっている

新しく子どもを授かった夫婦に、「不思議に、お父さんにもお母さんにも似ているね」と言ったところ、「当たり前でしょう二人の合作ですから」と言われたことがありました。父親のまだ生まれていないいのちに対する実感は、二人の間が緊密であれば深くなるのではないでしょう。結婚は自分のすべてを相手に委ね、相手のすべてを受け入れることによって成り立ちます。夫婦は互いに補い合い、助け合う存在、「これこそ、わたしの骨の骨、肉の肉」(創世記 二：23 参照)としての人生のパートナーとなり、「二人はもはや別々ではなく、一体」(マタイ 一九：6 参照)となります。相手にすべてを委ね、すべてを受け入れて一体となるならば、相手の胎内で育っているいのちに対するいとおしさも、一人のものとなるのではないのでしょうか。また、母親にだけ妊娠にまつわるすべての問題を押しつけてしまうこ

ともなくなるでしょう。

神のたまものである

いのち

現代は生命に関する科学的解明が急速に進んでおります。遺伝子操作、体外受精、出生前診断、中絶、安楽死、クローン技術などの知識によって、人間は生命の分野に介入することになりました。そして、人間は自分と他の人の生命の所有者であるかのように思い、振る舞うようになりました。生命の誕生に神秘性が無くなり、いのちが神のたまものであることを忘れがちになります。このことは、生まれていないいのちへの尊敬を薄れさせているようにも思われます。旧約聖書の詩編作者は、「胎児であつたわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている、まだその一日も造られないうちから」(詩編 一三九：16)と神の計らいを語っています。

野村純一司教

中絶で子どもを失うこと

子どもを中絶した女性の精神的な苦しみや悩みは、中絶反対運動の内部ではよく知られ、広く公表されています。さらに、中絶後遺症に直面している女性を支援するためのグループも存在しています。

子どもを中絶する決断に関与した男性の場合はどうでしょう。男性もマイナスの精神的な影響を受けるのでしょうか。もしそうならば、その影響に対処するためにどこに助けを求めればよいのでしょうか。私たちがこれらの問題やさらに多くの問題を調査するにつれて、あなたがたはその回答に驚くことになるでしょう。

ピーターと彼のガールフレンドはたった一回セックスをしただけでした。少したって、彼女は彼に電話で妊娠をしていることを告げました。彼らはそれぞれが避妊をしていたのにです。彼が乗り気になれないまま、彼女は子どもを中絶しました。ピーターは別れる理由として信頼関係の欠如をあげました。一、二ヶ月間、彼は苦しみから一時的に逃れるためにアルコールに頼っていました。悲しみをどうにかしようとして、友達に助けを求めましたが、あなたのことだけは正しかったと言われただけでした。彼は女性恐怖症に陥って八年

間もデートができなくなりました。タッドは、相手の女性が妊娠し、二人が子どもを中絶することで意見が一致したときに離婚しました。その過程で、二人の関係が壊れてしまいました。二度目の結婚からほどなくして、彼の娘が妊娠し、彼は自分の孫を中絶する手助けをしました。娘が二度目の中絶をするようになつて初めて、タッドは胎児が人間であるという事に気がつきました。中絶に対する自分の感情を隠そうとして、彼はそのことについて考えることを拒否していったのでした。この間に、内向的になることで自分の妻や子どもをたいへん傷つけたとタッドは言いました。

以上の話は、中絶で自分の子どもを失ったことを克服して生きようともがいてる世界中の三千万以上の男性の中のわずか二例にしかすぎません。多くは、中絶をしようとする決定に積極的に関わり、相手の女性が中絶を受ける手助けをした人たちです。相手の女性に中絶をすることを強要しさえした人もいくらかはいます。悲しいことに、自分の胎児に命を与えるようにとの願ひむなし、かけがえない胎児が中絶されるのをなすすべもなく見守った人もいます。

さらに、子どもが中絶のため手術室で死んでしまった後まで、自分が父親になつていたことを知らなかった人もいます。

行動の動機となる要因

多くの点で、中絶で子どもを失ったことに対する反応の仕方は、男性と女性とではたいへん異なっています。このかけがえのないものを失ったことに対する男性の反応の仕方を明確にするためには、まず男性の行動の動機となるものを理解することが大切です。

本能によって男性は、人生の五つの重要な領域で成功を収めるよう駆り立てられます。男性はしばしば喜びを享受する、子どもをつくる、養つ、守るそしてうまくやるという能力によって定義されます。中絶という状況の中でこれらの本能を一つずつ簡単に検証してみましよう。

喜び：男性が喜びを享受したいと思う願望は、性的な満足感や成就感への必要性を越えたものなのです。それにはまた、子どもをつくり、子どもが成長し、自らの努力と能力によって学び自立した建設的な社会人となつていくのを見守るという喜びが含まれます。男性は

また、一生涯の伴侶を得る喜び、つまり人生の良い時も悪いときもずっと友でいてくれる妻を得るという喜びを求めるのです。

子どもをつくる：男性を行動に駆り立てる最も重要な要素は、たぶん子どもを作りたいという願望でしょう。男性は人類の存続において非常に重要な役割を果たしています。言葉に出しても出さなくても、ほとんど全ての男性は自分の肉と血を分けた子孫を作るという考え、つまり家名や血筋を維持するという考えを重要視しているのです。

養う：男性の生殖サイクルはセックスという行為で終わります。同時に女性のサイクルが始まるのです。従つて男性の優先順位は子どもを作ることから、母親とともに子どもを養うことに変化します。男性は、この新しい家族が日々の必需品を自分に頼るであろうことを本能的に知るので、男性の心の中では、家族をうまく養うことが重要なことになるのです。

守る：家族を養つことと同様に、男性は家族を守るようにうまくプログラムされているのです。子どもの生涯を通して、絶えず守つてやらなければならない多くの危険なことがあります。たとえば病いや怪我の恐れとか、賢明な決断を下すこととか、生涯を通して無数にある誘惑にいつノーと言うかを教えることとか。男性が子孫を守る必要性は過小評価されてはならないのです。

うまくやる：現代社会のなかでこのことが話されるとき、この言葉はしばしば男性の性的能力のことを指します。このことは当てはまることではありませんが、それは性行動のみに限定されるものではありません。うまくやるということには、人生のさまざまな面でうまくやる能力も含まれています。仕事での能力は男性の成功を定義するのに最も重要なものです。それによって収入を得られ、社会的地位が築かれ、同僚から賞賛を集めることになるからなのです。社会的な活動の舞台でうまくやることは、友情を確かなものとし、男性が喜びに対する願望を達成する手助けとなるのです。

社会はしばしば、喜びを享受する、子どもをつくる、養つ、守るそしてうまくやるということをうまくこなす能力に基づいて男性を判断します。男性が中絶を経験すると、人生のこれらの重要な要素がひどく損なわれたり、しばしば完全に破壊されたりするのです。

兆候

中絶で子どもを失ったことが原因の、男性に現われる最もよく見られる顕著な兆候は怒りです。個人的に中絶の決定を経験したことがあるあるカウンセラーは、彼が相談にのつた全ての男性が中絶前より怒りの度合いが高いことを指摘しました。その上、それぞれが、その怒りに基づいて、自分自身あ

中絶で子どもを失ったことが原因の、男性に現われる最もよく見られる顕著な兆候は怒りです。個人的に中絶の決定を経験したことがあるあるカウンセラーは、彼が相談にのつた全ての男性が中絶前より怒りの度合いが高いことを指摘しました。その上、それぞれが、その怒りに基づいて、自分自身あ

るいは他の人に害を与えるような行動の仕方をしたというのです。別のカウンセラーはこの怒りを「まさに爆発するのを待って力チカチいつている時限爆弾」の怒りにたとえました。

中絶のために、自分の胎児を守り、養うことができなかったという男性の怒りとフラストレーションはいくつかの方法で現われてきます。男性は、自分が胎児の死に関与したということ、または「弱くて」胎児の死を防ぐことができなかったということを意識する苦痛を紛らわすためにしばしばアルコールに依存します。他人との接触を避けるために、あるいは人生の非常に重要な局面で成功を収めようと必死に努力して仕事中毒になる人も多くいます。

相手との関係は、中絶の決定をした後必ずといっていいほど壊れます。さらに、女性との将来の関係もしばしば困難または不可能になるのです。女性が子どもを中絶する決定を完全に支配し、父親にはなすべがないのです。非常に重要で、人生に影響を与える決定に関して何もさせてくれないという事は、女性に対してのかなりの憤りと不信を生むことになりま。前回の経験の結果として、男性は、また妊娠するかもしれない、そしてその結果を自分がどうすることもできなくなるような状況に再び巻き込まれたくないと思つのです。責任のない、妊娠の心配の全くない性的関係をうまくもつことがで

きるので、同性愛を試してみる男性もいます。インポテンツになりたり、ポルノとマスターベーションにふけつたりといった他の形性の機能不全に苦しむ男性もいるでしょう。

中絶で子どもを失ったことでもがいている男性の他の兆候は、不眠や発作的パニック状態や貧弱な対応能力やフラッシュバックや悪夢や自分で好んだ孤立ということもあるかもしれません。ときばきと決断を下せないために仕事を維持できなくなったり、仕事や社会的環境において過度に危険を冒し、自分が失敗するように仕向けたりするようになるかもしれません。このことは自分が失敗者であり最も重要なとき、つまり自分の胎児を守る時に失敗したということの因果応報だと思つていいることから生じているのかもしれない。

その兆候への対処

中絶の決定が原因の悲しみと恥辱に対処しようとする時、最も効果を上げるためには、男性は他の人からの助言を受けるべきです。人は、子どもを失い父親でなくなったことと闘つている他の人のよりよい手助けとなることができます。

一般的に、男性の方が女性よりも中絶後の感情を抑えることが上手です。もし男性が中絶で子どもを失った感情的な後遺症を、最初の二、三ヶ月以内に直視すること



ができなければ、彼はしばしば何年もの間それを押さえつけ、それを直視することをもっと難しくしてしまふのです。多くの男性が、自分たちの人生においてさまざまな問題をかかえていることを、以前の中絶の決定とは結びつけずに認めています。

社会が、男性が中絶の後遺症に対処するのを二重に難しくしています。まず今の社会では、大部分の人が女性にPAS(中絶後症候群)が起こることさえ認めていないのです。次に、男性は子どもの時に、弱さを見せたり、泣いたりすることは男らしくないとしばしば教えられていいるのです。その結果として、男性は中絶の決定に現実的に対処できるような社会の励ましを全く得られないのです。男性の心的外傷後のストレスのことを言うとき、PASの観点からアプローチすることは効果的ではありません。男性は物事を分類して考える傾向があります。大多数の男性は中絶

は女性のみが決定するものだという間違つた言葉を受け入れてきました。PASについて男性に話しかけることは、これは女性にだけ影響のあるものだという彼らの信念をさらに強くすることになるでしょう。

男性は、中絶という状況で自分の子どもを失ったことについて話したり、そのことに対処したりすることをもっと受け入れられるかも知れません。子どもを失つたということは男性にとってもない影響を与えてきたのです。にもかかわらず、彼は自分が自分が抱えている問題の根本原因だと気がついていないかもしれないのです。中絶後に、自分以外の男性にも共通して現われる兆候について話し合うことは役に立つかも知れません。男性がそれらの兆候の多くと同じ兆候が自分にもあるということがわかれば、新しい光を当てて自分の問題の原因を見ることがもっとできやすくなるかも知れません。

たいていのベテランのカウンセラーはソフトな方法であつても直接的な方法を提唱しています。今は手のこんだ方法をとるときではないのです。男性に、決して目にする事のない、決して腕に抱くことのない赤ちゃんのことを嘆き悲しんでいいんだと話してあげなさい。大変なものを亡くしたことに対して彼に泣かせてやりなさい。必要なら泣かせてやりなさい。彼はその損失と恥辱のことを嘆き

悲しむ必要があるのです。

中絶後に回復への道を辿りはじめたほとんど全ての女性は、宗教的信仰に回帰した、あるいはそれを発見したという事実のおかげだと言つています。そのことはまた男性にも当てはまるのがわかつています。完全に神様に許されていることがわかる喜びを彼に経験させてやってください。このことによつて、心のなかに神様の安らぎを得るといふ次の非常に重要な段階へと進むことが可能になります。この段階はおそらく、全つするものが最も難しい段階でしょう。深刻な恐れと不信のために男性は、自分は神様との関係に値しないと感じるかもしれません。

カウンセラーは、教会がこの問題と公然と取り組むことを促しています。あるカウンセラーが、「中絶の決定を直視できていない男性がたくさんいます。」と言つています。自分自身の経験のことに触れて、彼は、「もし一人あるいは教会が何かを言つてくれていれば、わたしはそれに応えたでしょう。」と言いました。

教会や組織は、聖書研究や個人あるいは集団でカウンセリングを受けられる時間などのような宗教的な観点から、男性と彼らの悲しみに取り組まなければなりません。他の取り組みはまだ始まつたばかりですがそれらが発展を続け、中絶後の問題に直面している男性の助けとなつてくれるといいのですが。ブラッドレー・マッテーズ

英国政府は制限付きで クローンの研究を奨励

ワシントンポスト紙が「損傷を受けた人体のための遺伝子利
用人体パーツ産業」に拍車をか
けることになりかねないとした
決定において、昨日英国政府の
諮問委員会は、英国が妊娠8週
間以内の胎児の組織のクローン
化を合法化しよう勧告しまし
た。

遺伝学者や医師や哲学者や大
臣に諮問した後、人間の胎児の
研究に関する政府の管理を審査
する立場にある「人間遺伝学諮
問委員会」は、「我々は、重病の
人たちに大いに役立つ可能性の
ある(クローン)技術を用いた限
定的な研究をこの段階で禁止し
てしまうのは妥当ではないと信
ずる。」と結論を下しました。

四人の委員から成る諮問団は、
「火傷の患者への皮膚の細胞の開
発や、アルツハイマー病やパー
キンソン病を患った人たちへの
新しい脳の細胞」の開発を目的
にした幹細胞研究を科学者たち
に続けさせることに価値を認め
ました。(リード、12月9日発行
のワシントンポスト紙)。

諮問委員会は、「法的・倫理的
境界線」を引く際に、「期間を限
定し、それを越えてしまうと細

胞製造のために胎児を使うこと
をできなくさせるよう」勧告し
ました。しかし、研究が認められ
る「受精卵後数週間という期限」で
さえ、人の胎児は「シャールで
育つていようと、母親の胎内で
育つていようと、同じ基本的な
権利を持っている」という理由
で、中絶反対論者との間に「激し
い論議を引き起こしました。」

ワシントンポスト紙は、英国
の決定は、政府の資金援助によ
る人間の胎児の研究が禁止され
ている「アメリカで、すでに持ち
あがっている論争」に火を付け
ることになるだろうと報じてい
ます。「もし英国でこの扉が開け
られれば、アメリカにおけるこ
の分野での決定に重大な影響を
もたらすでしょう。」と、「リスボ
ンシブル・ジェネティクス(責任
ある遺伝学)委員会」のメンバー
であるニューヨーク医科大学の
ステュアート・ニューマン氏は

述べています。彼はさらに、「実
用目的での妊娠8週間以内の胎
児の使用が可能ならば、同じ目
的で妊娠8週間以後の胎児も使
用することが可能なものではし
ょうか。」と述べています。

12月9日発行のワシントンポスト紙

韓国、クローン人間研究への 資金支援を禁止

韓国はクローン人間の研究へ
の資金援助を禁止しましたが、
「異端的な医師」が論争の手順を
急速に進めることを防ぐことは
出来ないと言いました。

この動きは、ソウルのキヨン
ヒ大学(キョングン)の医療チ
ームが、人間の胎児のクロー
ンを発達の第一段階で作るこ
とに成功したと発表した後
に現れました。

科学技術省はこの実験につ
いてキヨンヒ大学の教授達から
先立つた情報を一切与えられ
ていなかったと科学技術省役
人のキム・ホースンは言いま
した。「私たちの立場は堅固で
明白です。このような研究への
資金援助は一切行いません。」

しかし、キム氏は政府が科学
者に法的行動をとる予定がない
ことも付け加えました。「異端
的な科学者は常に存在するも
のです。私たちには彼らを止
める手段は何もありません。そ
の数はごくわずかなもので、数
匹の蚤を殺すために一軒の家を
焼き払うことはしないでしょ
う。」

国会では、立法者たちは癌や
他の病気の調査目的以外のク
ローン人間の研究を禁止する
新しい法案を通す準備をしま
した。

資金支援を禁止

「この法案は誰も罰すること
は出来ませんが、クローン研究
に興味を持っている数人の科学
者に強い警告を与える効果は
あります。」立法の率先者であ
るリー・シャンヒ下院議員は
言いました。

しかし市民団体は、このよう
な法案は罰を要求せず、また
クローン研究とそれに類似す
る科学研究との明白な区別も
定めていないため、クローン
人間研究阻止には役立たない
と非難しました。

「私たちは、キヨンヒ大学の
医療チームのように、商業的
利益と見かけ倒しの英雄的行
為を得ようとする科学者たち
をやめさせなければなりません
。」と20の市民団体は共同
声明の中で述べました。

キヨンヒ大学病院の生殖診療
所のリー・ポヨン教授は、彼
が生殖力のない患者を助ける
実験を遂行したと述べ、人間
の胎児のクローン作りは人工
器官を作るために促進される
べきだと言いました。しかし、
彼は法的かつ道徳的論争が解
決するまでこれ以上実験は行
わないと言いました。

多くの韓国人は孔子の慣習に
影響され、自分たちの身体が
祖先から相続したものだとし
て信じています。彼らは家族
システムを尊重し、先

祖に関する詳細な資料を保管
しています。クローン人間は、
この伝統を崩壊させること
になります。

リーのチームは、女性の卵
子の核をその女性の身体の
細胞の一つの核と置き換え、
彼女のDNAを卵子に移しま
した。チームは、卵子が四
つの細胞に分割するとい
う、発達初期段階に至る
まで卵子を培養しました。

アメリカのクローン専門家
は、これは人間のDNAが身
体の細胞から人間の卵子に
移され、その後卵子が発達
初期細胞まで成長した、初
めての例だと言いました。卵
子や精子に対する身体の細
胞は、人のDNAの完全な補
足物を含むのです。しかし、
アメリカ人はこの実験は、
生育しうる胚芽、ましては
人間の胎児まで成長できる
か判断するには打ち切りが
早すぎたと加えました。

世界初のクローン動物であ
る、クローン羊のドリーを
作ったスコットランドの科
学者を含む他の人たちは、
韓国のチームは科学議事録
に提示するような証拠を
まだ持っていないのではと
示し、リーの主張を疑いさ
えしました。

インフォネットニュース

希望のろうそくに火をともし

一九八八年一月十三日、私の娘はアンを出産しましたが、彼女はダウン症と診断されました。私はアンと母親をパリへ行かせ、ダウン症の子どもには余分な染色体が存在していることを発見した人で、ダウン症の最も著名な専門家であるレジューヌ博士に診察してもらいました。レジューヌ博士は多量の葉酸塩とビタミンB12を処方してくれましたが、最も重要なことは、彼女が私たちに希望を与えてくれたことです。それは、「運が悪かったのです。残念ですが私たちにできることは何もありません。」という他の医者たちから与えられたこととは全然違ったものでした。

アンが五才になった時、私はダウン症の子どもを助けるためにアンの名前で基金を始めました。様々な資金集めの努力をして、私たちはやっと慈善基金を軌道にのせることができました。私たちの第一の目標は、貧しい母親が治療のために子どもたちをパリへ行かせる飛行機代を払うことでした。第二の目標は、レジューヌ博士の研究のための資金を援助することでした。そして

第三の目標は、このような子どもたちを助けるために何ができるかということについて医者たちを教育することでした。

一九九二年に私たちは、医者や専門家のために王立医学協会に基調講演をお願いしました。彼はダウン症の子どもたちの50%が甲状腺欠損で25%がチロキシンの服用が必要であるという単純な事実を指摘しました。他の講演者も、このように、いつ適切に治療すれば、このような子どもたちが普通の学校に通い、高校を卒業でき、高等教育へと進むことができるかを話しました。ほとんど全ての子どもが幼いころから言語療法が必要で、若年からの物理的療法を必要としているのです。

り口コミで急速に増加しました。私たちは今、もっと多くのクリニックと医者とボランティアを必要としています。現在百二十人の子どもたちが登録されていて、年に一回または二回、小児科、心理学、血液学の専門家に診察を受けています。彼らは言語療法師の評価を受け、家に持って帰る手紙を渡されます。イギリスでは、全ての地方自治体に、必要な場合に言語療法と物理的療法を提供する法令に定められた義務があります。そのような療法はダウン症の子どもの場合にはいつも必要なのです。

これらの子どもたちに処方された薬のリストと血液検査の結果は地元の家医と小児科医に送られます。ヘモグロビン検査だけでは不十分なのです。

今「レジューヌネットワーク」というものがあります。レジューヌ教授の医療方法に従った診療所が、マルタ、イタリア、シカゴ、ニューヨークそしてデリーに設立されています。そして私たちはすでにオーストラリアからも問い合わせを受けています。

最初のクリニックの時から働いているコール博士は、ダウン症の子どもたちに関して二つの重要な事実をすでに発見しています。40%の子どもたちが血清中の鉄分が少なく、6%が高脂血症です。(一般の人の先天性の高コレス

テロールは1%未満です。)これら二つのことは治療が可能で、そうすることによって健康と知能を向上させることができます。私たちはまた、プリンと尿酸のアンバランスも発見していて、このことはこの問題の解決法が(二分脊椎の場合にそうであったように)生化学にあるという多くの人々による考えを裏付けることになりました。

レジューヌ教授はこれらの子どもたちの将来の精神面を向上させることができることを示されました。彼はいつも、彼の治療方法によって、成長するにつれ

「ダウン症特有の外観」がなくなることをさえあると主張していました。

アンは六才の時、髄膜炎で亡くなりましたが、彼女の人生は虚しかったことはありませんでした。彼女は可愛く、また深い愛情を受けました。洗礼の時、彼女は火のともったろうそくをプレゼントされ、毎年洗礼の記念日ごとに火をともしようと行われました。アン基金のシンボルマークは火のともったろうそくです。ちいさなアンがろうそくの火がいつまでも燃え続けようように。 マーガレット・ホワイト

「オランダ人精神科医は心の病による安楽死を認める」

安楽死の人道性をめぐる論争が激しいある国で、オランダ人精神科医の大半が、心の病に悩む患者の自殺に手を貸すことを受当との見解を示したと、ニューイングランド医学新聞の記事が報じた。

記事中に米国の老人性痴呆研究者ナンシー・ガンジー二医師の見解も出ていて、医師が精神障害の患者の自殺に加担してはならないとある。一般論として、彼女自身が賛成かどうかは明言していない。だが調査対象五百五十二人中十二名が、「耐え難く絶望的な精神的苦痛」や「他の療法の実効」を理由に、患者の自殺に加担したことがあると回答している。「耐え難く絶望的な精神的苦痛」に悩む患者が発作的に自殺するのを防ぐため暴力的手段をとったと答え

アンは六才の時、髄膜炎で亡くなりましたが、彼女の人生は虚しかったことはありませんでした。彼女は可愛く、また深い愛情を受けました。洗礼の時、彼女は火のともったろうそくをプレゼントされ、毎年洗礼の記念日ごとに火をともしようと行われました。アン基金のシンボルマークは火のともったろうそくです。ちいさなアンがろうそくの火がいつまでも燃え続けようように。 マーガレット・ホワイト

オランダにおける自殺や安楽死への加担は、裁判や法律改正がなされれば米国でも実施可能であると、詳しい調査に乗り出している。オランダでは違法ではあるが暗黙の了解で行われていて、死を望まない多くの患者まで医師によって殺されているという乱用ぶりが先ほどの記事により露呈した。

一九九四年、オランダ最高裁では特別な場合に限り、耐え難い精神苦痛(精神病を除く)に悩む人の自殺に医師が手を貸すことを認可した。調査対象となった精神科医の37%が少なくとも一度は患者から執拗に自殺の手助けを請われたことがあると答えている。

批判的質問

一、何故自殺援助は合法化されるべきでないか。

何の罪もない人の命を取り去るのを許可する事は、秩序の整った社会で法律の基本的な目的に矛盾するものである。自殺援助を認める法律や判決は、かわい患者達の命の価値を低め、そんな患者達は死んだほうが良い等と考える者達によっていいように利用されてしまう危険に患者達をさらすものである。そのような政策は、これまで医師達に命を助け、殺してはならないと倫理的教育をしてきた医学界を墮落させてしまう。陳情もできず、社会の外に押しやられた人々、すなわち、貧しい人々、かよわいお年寄り、少数人種の人々は、真つ先にその死の重圧を感じざるを得ないだろう。

二、何故障害を持つ人々は、自殺援助を気にするか。

障害を持つ沢山の人は、医者をも含める健康な人達の「障害を持つ位なら、死んだ方がましだ。」という偏見を持った態度を長い間受けてきた経験を保持している。家族や医者や社会がそのような偏見を保持して、障害者の人々が、普通の生活に適応しようとしてもうまくいかず、落ち込んだりくじけそうになったりして、結果的に重い病気や障害を抱えた人々に死を勧める事になってしまう。自殺が患者の「自由に選ぶ権利」と考えるのは、危ない間違った概念である。

三、「本当に自殺援助を望む」と言つ判断力のある、不治の病を患つた人々はどうかであるか。

不治の病を患つた人達の自殺願望は、健康な人達はその願望を持つ時と同じく、気持ちの落ち込みから来ている。彼等の痛み、気落ち、色々な問題が処理されれば、通常はそれ以上自殺について口にする事はないであろう。

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死..... + 郵送料
 [202] 第二の処女生..... + 郵送料
 [203] デート..... + 郵送料
 [204] どうするの?..... + 郵送料
 [205] "NO"という技術..... + 郵送料
 [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
 [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
 [208] していませんか..... + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
 [306] ミニソフィアAceエース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの = one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
 [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS).....15000 + 郵送料
 [500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教義).....2987 + 郵送料
 [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド).....1000 + 郵送料
 [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
 [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
 [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....650 + 郵送料
 [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
 [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
 [509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
 [511] (本) 赤ちゃん:最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
 [512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
 [513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
 [514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
 [515] (本) 経口避妊薬:ピル.....100 + 郵送料
 [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

ハイグ会議は「真の問題・人口減少」を無視

人口調査協会(PRI)代表・ステイブン・W・モシャアは、ハイグ会議での、人口抑制と中絶への偏つた注目を非難した。

「最も差し迫つた問題は人口爆発ではなく人口減少である」。モシャア氏はさらに、「第三世界と比較して、第一世界の出生率は下降を続け、実際に人口が減少している国も多い」と語る。

ヒラリー・クリントンやUNFPAの代表はハイグ会議を機に、世界規模での人口抑制に米国がさらに予算を投じる必要性を指摘している。クリントン夫人は「人間の基本的権利」と彼女がみなす中絶に世界中が乗り出すための費用に限定すべきだとも主張している。

モシャア氏は「ハイグ会議の過激な人口抑制案は、現代社会の最も切迫した問題を無視」さらに「社会の高齢化、迫りくる年金の崩壊、先進国の人口減少に触れていない」と指摘する。

氏はまた「中絶が違法とされる国であえてそれを人口抑制に用いるのは、その国の尊厳侵害にあたる」として、強制的な家族計画が深刻な問題となっている国も多く、中国では許可なく妊娠した女性が容赦なく中絶や避妊手術に追い込まれている」と語る。

人口調査協会

ブルガリアの中絶率、過去最高に

ブルガリアでは今年に入って5ヶ月間で、過去最高となる12万人もの女性が中絶をし、うち10万件は合法で残りは違法であると、トゥルド&コンチネント紙が報じた。公的調査によると15万件もの妊娠が阻まれた一方、7万2千しか新生児が誕生していない。ここ数年以内に全世帯の4分の1が子どもひとりだけの家庭となるだろうと予見する社会学者もいる。

高学歴、若年齢、高収入な人達の間で、子どもを持つことへの欲求は薄れる一方である。

[511] 赤ちゃん:最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬:ピル

注文: 1 - - - - 5 1部 = ¥ 100
 6 - - - - 20 1部 = ¥ 75
 フルカラー 21 - - - 99 1部 = ¥ 50
 1000 - - 以上 1部 = ¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

パンフレット申し込は・・・

1 ~ ~ 5 1部 = 35円
 6 ~ ~ 100 1部 = 25円
 101 ~ ~ 500 1部 = 20円
 500 ~ ~ 以上 1部 = 15円

組み合わせは自由です

十代の性(2)

質問：勉強のことをしょっちゅう聞きにくる男の子が学校にいます。でも彼は何度も催促しないと本を返してくれない上に、どうやら私の事をライバル視しているらしく、クラスの他の女の子達に私の悪口を言っているのです。

答え：利用されたままではいけません。他人を使って欲しい物を手に入れようとすると、利己的な考えに基づく関係です。どんな関係に

も多少は相手を利用する部分が存在します。それは私達が人間関係において少なからず身勝手なところがあるためです。利用よりも友情の方が上回る場合もあれば、他人を利用するための見せかけだけの「友情」もあります。あなたの場合は、自分が望む友情のあり方を彼に明示することが必要です。もしも彼がそれを納得して実行しないなら、彼からの頼み事を「ノー」と断って無視しましょう。

相手を利用する・しないの問題はセックスがらみの人間関係でもよく見受けられます。売春・ヌード・レイプ・男の子が欲望を満たすため彼女に強要するセックスなどが顕著な例です。その他に、親しい同じ人とはかり週末を過ごしたり、友達に「見せびらかしたい」ためにデートをしたり、誰かを見返すために別の人と仲良くするのも、相手を利用しているのと同じ事です。(続く)

「セックスするべきじゃなかった」

うまく話す自信がないのですが…。私はまだ16歳で、セックスすべき歳じゃなかったのにしてしまい、妊娠しました。若すぎるということ、中絶以外選択の余地はほとんどありません。中絶して以来、そのことを悔やまない日はありません。もし赤ちゃんを産んでいたとしてもそれはかり考えています。

でももう遅すぎます。妊娠半ばになってからの中絶だったけれど、男か女かもわからない自分の子に、チートスと名づけました。自分がした事をとて後悔しているけれど、チートスは天国で幸せに暮らしていると信じています。 ベティ

事務所便り

水を含んだ紫陽花までもが、これは少し変ではないかと頭をかしげる頃、皆様には如何お過ごしでしょうか。

先月号でもいのちについてのメディアのことをお知らせしましたが、今月も性についてNHKが独自に3000人に全国調査を行った結果、NHK教育のETV2000『揺れる男と女』で4回にわたって放映されました。第1回目は妊娠経験者の中絶経験43%。避妊出来ない夫婦関係。第2回目は女性の性的被害33%。自覚なき性暴力、夫婦に潜む原因。第3回目は16才〜19才の性体験36%。性教育のジレンマ。第4回目は20代〜40代のセックスレス19%。日本社会は変わるかという順番でした。御覧になられた方もきつと多いことでしょう。そして、また、NHK総合テレビの『てれこじ』で放映された番組に高知市の県立高校生が数人登場し、もしあなたが今望まぬ妊娠したらどうするかとの答をそれぞれが紙に書き、その後、ボードに貼っているのを眺めながら、話は進みます。一人の男の子の答えは「責任をとる」でした。アナウンサーがどんなに責任をとるのか尋ねると「女の子とその両親にあやまる」との返事。どうしてあやまるのかの問いに「傷をつけたから。」でも本当にあやまらないといけないのはだれ?との問いには中々その男子生徒は気付かない。側のアナウンサーがジェスチャーで大きなおなかをして、初めて気がついたようです。

尚、今まではニュース8ページの電子メール(e-mail)は代表者のノボトニーの所に行っていました。今月より事務所直通の電子メールが入りました。注文、記事、相談…今までよりずっと速く返信出来ると思いますので皆様、どうぞご利用下さいませ。